

平成 26 年度

解 答 と 解 説

《平成26年度の配点は解答用紙に掲載してあります。》

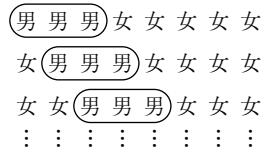
<数学解答> 《学校からの正答の発表はありません。》

- 1 (1) 4320通り (2) 4320通り (3) 14400通り
 2 (1) 1 (2) $-\frac{1}{2}$ (3) $\frac{3}{2}$ (4) 8
 3 (1) $\sqrt{6}+\sqrt{2}$ (2) 2 (3) $4\sqrt{3}+6$ (4) 2
 4 (1) $x=2$ $y=1$ $m=3$ $n=2$ (2) $x=5$ $y=2$ $m=7$ $n=3$

<数学解説>

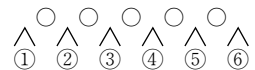
1 (場合の数—人の並び方の数)

重要 (1) 男子3人をひとまとめにすると、女子5人と合わせての並び方の数は、最初に6通りあって、そのそれぞれに対して次に5通りずつあり、さらに、それらに対して次に4通りずつある。そしてさらに、…というように数が1ずつ減っていくので、 $6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 720$ (通り) 男子3人を a, b, c とすると、その並び方の数は $3 \times 2 \times 1 = 6$ (通り) よって、 $720 \times 6 = 4320$ (通り)



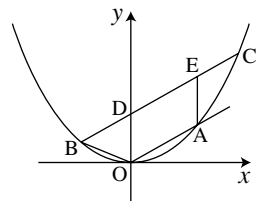
重要 (2) 両端が男子の場合、そこに a, b, c の誰が並ぶかについては、 $3 \times 2 = 6$ (通り) ある。間には女子5人と男子1人の6人が並ぶ。6人が一列に並ぶ並び方の数は、 $6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 720$ (通り) なので、6通りのそれぞれに720通りずつあるから、 $6 \times 720 = 4320$ (通り)

やや難 (3) 右図のように、女子を○印で表すとその両端や間に男子が入る。図の①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥のどれか3カ所に男子が入るときに、どの男子も隣り合わない並び方となる。①~⑥から3つの場所を選ぶ選び方は、①②③, ①②④, ①②⑤, ①②⑥, ①③④, ①③⑤, ①③⑥, ①④⑤, ①④⑥, ①⑤⑥, ②③④, ②③⑤, ②③⑥, ②④⑤, ②④⑥, ②⑤⑥, ③④⑤, ③④⑥, ③⑤⑥, ④⑤⑥の20通りある。そのうちの例えば①②③について、 a, b, c がどの場所に入るかについては6通りある。よって、男子の並び方は $20 \times 6 = 120$ (通り) 女子5人の並び方は、 $5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 120$ (通り) よって、どの男子も隣り合わない並び方は、 $120 \times 120 = 14400$ (通り)



2 (関数—二次関数, 1次関数, 交点, 座標, 面積)

重要 (1) 直線OAの式は $y=ax$ で、点Aは $y=ax^2$ のグラフと直線 $y=ax$ の交点だから、そのx座標は方程式 $ax^2=ax$ の解として求められる。 $ax^2-ax=0$ $ax(x-1)=0$ よって、 $x=0, 1$ 点Aは原点Oではないから、そのx座標は1



(2) 点B, 点Cのx座標を b, c とすると、y座標は ab^2, ac^2 で表される。BC//OAなので、直線BCの傾きは直線OAの傾きに等しく a である。

直線BCの傾きは、 $\frac{ac^2-ab^2}{c-b} = \frac{a(c+b)(c-b)}{c-b} = a(c+b)$ よって、 $a(c+b)=a$ だから、 $c+$

$b=1 \cdots \textcircled{1}$ また、 $BC=2OA$ だから、(点Bと点Cのx座標の差) $=2 \times$ (点Oと点Aのx座標の差)となる。よって、 $c-b=2(1-0)$ $c-b=2 \cdots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}-\textcircled{2}$ から、 $2b=-1$ $b=-\frac{1}{2}$ よって、点Bのx座標は $-\frac{1}{2}$

(3) (2)の①, ②について、 $\textcircled{1}+\textcircled{2}$ から、 $2c=3$ $c=\frac{3}{2}$ よって、点Cのx座標は $\frac{3}{2}$

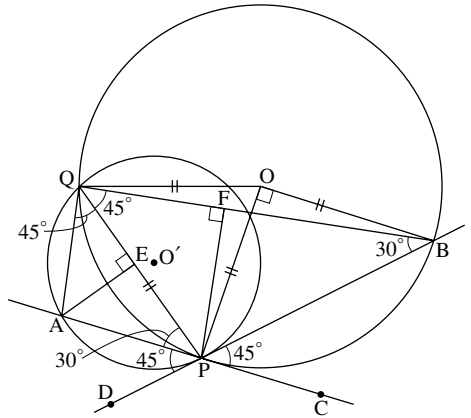
やや難

(4) $B\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{4}a\right)$, $C\left(\frac{3}{2}, \frac{9}{4}a\right)$ 直線BCの式を $y=ax+b$ とおいて、 $\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{4}a\right)$ を代入すると、 $\frac{1}{4}a=-\frac{1}{2}a+b$ $b=\frac{3}{4}a$ 直線BCとy軸との交点をD、 $x=1$ の直線と直線BCとの交点をEとする。四角形OACBを $\triangle BOD$ 、平行四辺形OAED、 $\triangle CAE$ を合わせたものと考え、 $\frac{1}{2} \times \frac{3}{4}a \times \frac{1}{2} + \frac{3}{4}a \times 1 + \frac{1}{2} \times \frac{3}{4}a \times \frac{1}{2} = \frac{9}{8}a$ これが9になるとき、 $\frac{9}{8}a=9$ $a=8$

3 (平面図形一円の性質, 三平方の定理)

重要

(1) 円Oの接線上に図1のように点Cをとる。円の接線(CP)と接点を通る弦(PB)の作る角($\angle BPC$)はその角内にある弧(PB)に対する円周角($\angle BQP$)に等しいから、 $\angle BQP=45^\circ$ 同じ弧に対する円周角と中心角の関係から、 $\angle BOP=2\angle BQP=90^\circ$ よって、 $\triangle OBP$ は直角二等辺三角形となるから、 $OP:PB=1:\sqrt{2}$ よって、円Oの半径は、 $\frac{1}{\sqrt{2}}PB=\frac{\sqrt{2}}{2} \times 2(\sqrt{2}+1)=\sqrt{6}+\sqrt{2}$



(2) $\angle POQ=2\angle PBQ=60^\circ$ よって、 $\triangle OPQ$ は正三角形だから、 $PQ=PO=\sqrt{6}+\sqrt{2}$ ところで、 $\angle APQ$ は、円Oの接線と接点を通る弦の作る角だから、 \widehat{PQ} に対する円周角に等しい。よって、 $\angle APQ=\angle PBQ=30^\circ$ また、円O'の接線上に点Dをおくと、接線と接点を通る弦のつくる角とその角内にある円周角との関係から、 $\angle AQP=\angle APD=\angle BPC=45^\circ$ 点AからPQに垂線AEをひくと、 $\triangle AEQ$ は直角二等辺三角形、 $\triangle PAE$ は内角の大きさが $30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$ の直角三角形となるので、 $QE=x$ とおくと、 $AE=x$, $PE=\sqrt{3}x$ よって、 $PQ=\sqrt{3}x+x=x(\sqrt{3}+1)$ 一方、 $PQ=PO=\sqrt{6}+\sqrt{2}=\sqrt{2}(\sqrt{3}+1)$ よって、 $x=\sqrt{2}$ $AQ=\sqrt{2}x=2$

やや難

(3) $\triangle APQ=\frac{1}{2} \times PQ \times AE=\frac{1}{2} \times (\sqrt{6}+\sqrt{2}) \times \sqrt{2}=\sqrt{3}+1 \cdots \textcircled{1}$ 点PからBQに垂線PFをひくと、 $\triangle PQF$ は直角二等辺三角形、 $\triangle BPF$ は内角の大きさが $30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$ の直角三角形となるので、 $PF=\sqrt{3}+1$, $BF=3+\sqrt{3}$, $QF=\sqrt{3}+1$ となる。よって、 $BQ=2\sqrt{3}+4$ $\triangle PBQ=\frac{1}{2} \times BQ \times PF=\frac{1}{2} \times (2\sqrt{3}+4) \times (\sqrt{3}+1)=3+3\sqrt{3}+2=3\sqrt{3}+5 \cdots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ から、四角形APBQの面積は、 $4\sqrt{3}+6$

やや難

(4) $\angle PQB=\angle AQP=45^\circ$ なので、 $\triangle ABQ$ は直角三角形となる。 $AB^2=AQ^2+BQ^2=4+12=16\sqrt{3}+16=32+16\sqrt{3}=16(2+\sqrt{3})$ $PQ^2=(\sqrt{6}+\sqrt{2})^2=6+4\sqrt{3}+2=8+4\sqrt{3}=4(2+\sqrt{3})$ したがって、 $\frac{AB^2}{PQ^2}=\frac{16(2+\sqrt{3})}{4(2+\sqrt{3})}=4$ $\frac{AB}{PQ}>0$ だから、 $\frac{AB}{PQ}=2$

4 (数の性質—素数, 約数, 倍数)

重要 (1) 素数とは、約数を2つしか持たない自然数である。言い換えると、素数の約数は1とその数自身である。 $xy=n$ で、 n が素数だから、 x と y の小さい方の数 y は1である。よって、 $xy=x=n$
 $x+y=x+1=m$ なので、 x が奇数であると m は偶数となり、偶数の素数は2だけだから、 $x+1=2$ 、 $x=1$ となり不適合である。よって、 x は偶数であり、 $x=n=2$ $m=2+1=3$

やや難 (2) $x+y=m\cdots$ ①, $x-y=n\cdots$ ②とすると、(①+②)から $2x=m+n\cdots$ ③, (①-②)から $2y=m-n\cdots$ ④ ③, ④から、 $m+n$, $m-n$ は偶数である。 m , n のどちらも偶数ということはないので、 m , n のどちらも奇数である。よって、①や②から、 x と y のどちらかが偶数であり、 $x>y$ となるので、 $y=2$ である。①から、 $x+2=m$, $m-x=2$ ④から、 $m-n=4$ よって、 n , x , m は連続する3つの奇数であり、そのどれかが3の倍数となる。よって、 $n=3$, $x=5$, $m=7$

★ワンポイントアドバイス★



②は、点B, Cの座標を文字で表して関係式を作っていく。③は、円の接線と接点を通る弦についての考え方をを用いる。④は、素数の意味、偶数や奇数、倍数、約数など、自然数について広く考えていく。

<英語解答> 《学校からの正答の発表はありません。》

- A** I (1) saying (9) explanation
 II (2) イ (4) エ (13) ア (17) ウ
 III (3) イ (6) ア (7) エ (12) ウ (19) エ
 IV (5) 3番目 ㊦ 6番目 ㊧ (10) 3番目 ㊨ 6番目 ㊩
 V (8) ウ (14) イ VI (11) on (16) into
 VII (15) ウ (18) ウ VIII (20) chance IX イ, カ
- B** I (1) エ (3) ア (13) ウ
 II (2) イ (8) ア (9) エ (10) ア III ウ
 IV (5) キ (6) オ (14) カ (19) エ (20) イ
 V (7) covered (12) so, to (21) so, that, couldn't
 (22) whether, he, she VI エ VII 3番目 ㊰ 5番目 ㊱
 VIII forty thousand dollars IX machine X ウ
 XI 1 for, after 2 painting, writing 3 watched, dance[dancing]
 4 for, not 5 both, and

<英語解説>

- A** (長文読解問題・エッセイ：語形変化、分詞、名詞、語句補充・選択、過去完了、代名詞、動詞、疑問詞、語句解釈、熟語、語句整序、前置詞、受動態、比較、不定詞、語句補充、アクセント、言い換え・書き換え、内容一致)

(全訳) その日は女同士のショッピングの日で、私たち3人はデパートにいて、貴金属売り場のイヤリングに「うわあ」とか「まあ」とか(1)言っていた。その時1人の女性がもう1人に「福耳

ね!」と言った。私はこの言い回しをそれまでに⁽²⁾聞いたことがなく、最初に⁽³⁾思いついたことは「耳の服」だった。ひょっとして耳あてのこと? でもなんとなく、それは正しくなさそうだった。耳に息を吹くこと? 違う… ああ、なるほど、イヤリングを扱う前に、自分の耳を拭くべきということね!

私はまもなく、自分の考えは⁽⁴⁾どれも正しくなくて、「福耳」とは日本語で大きく厚い耳たぶのことだと知った。⁽⁵⁾そのような耳たぶを持った人は幸運で裕福だと言われている。

その後、その晩に、鏡をのぞきこみ、頭を左右に動かして、⁽⁶⁾私にはほとんど耳たぶがないことがわかった。うーん… 私は化粧台の上に置いてある両親の写真を見た。彼らの耳は私の耳とそっくりだ。私は⁽⁷⁾ひどい運命になりませんようにと願う。

⁽⁸⁾人の耳たぶの大きさが裕福さと関係がある、ということは私にはかなり奇妙に思えたので、もっと知るために他の友人にも聞いた。誰もが異なる⁽⁹⁾解釈を持っているようだった。しかし理にかなうように思われたものは、昔、皆が貧しかったころ、太った人々は幸せだと考えられた、なぜなら⁽¹⁰⁾彼らは十二分に食べ物を持っていたからだ。

人は体重が⁽¹¹⁾増えると、たいてい手首、腕、肩、首も同様に太くなる。⁽¹²⁾さっとインターネットで画像検索すれば、このことはしばしば真実であるとわかる。

「本当の福耳は単に大きな耳たぶを持つことではなくて、耳たぶが小さなスプーンのように、端のところで少し細くなっていて、米粒が1つ、落ちずに乗っていられるようでないといけなのよ」と別の友人が私に言った、そしてこう続けた。「そして角度はその米粒が口の中に⁽¹³⁾滑り落ちるような感じであるべきよ」

それはまさに理にかなう。神の恵みを支えることができる耳たぶは、同様に他の良いことを招いて保つ力も必ず持っている。

日本の七福神もみな、並外れて大きな耳たぶを持っている。ブッダ自身も長い耳たぶの姿で描かれる、そしてそれは、彼はすべてを聞くという意味だ。

私がかのころ、どうして耳は2つあり口は1つなのか、と教えてくれた先生がいた。それは⁽¹⁴⁾私たちは話すことの2倍聴くべきだ、ということの思い起こさせるためだ。私たちは口を閉じて心と意識を開き、本当に聴く必要がある、そしてそうすれば私たちの生活は豊かになるだろう。

誰でもよい聞き手が好きだし、良い聞き手は知識や情報、そして⁽¹⁵⁾機会をもたらしてくれる人を引き付ける。もし人に好かれていて良いつながりをたくさん持っていれば、豊かで成功した人生を送る見込みが大いにある。

私は個人的に知っている日本人の福耳リストを書くことにした。私は彼らを3つのグループ⁽¹⁶⁾に分けた。耳たぶが大きい、中くらい、小さい、である。私は名前を書き始めた。それはおもしろかった、なぜなら、何人かの人に関しては、私はその耳たぶを心の目ではっきりと見ることができたからだ。他の人たちに関しては、たとえ耳を隠す毛が頭にほとんど、またはまったく生えていない人でも、耳たぶが⁽¹⁷⁾どのような感じか思い出すことができなかった。そして私は写真アルバムを調べて、リストを完成させた。私にはたくさんの福耳の友人がいるようだ。

私の調査では、それはまったく⁽¹⁸⁾科学的ではなかったが、裕福さと耳たぶの間には関連性がありうるとわかった。私は自分の耳たぶが悲惨なので、この結果が出ないように望んだのだが、⁽¹⁹⁾関連性は存在したのだ。

もちろん、人々がどのくらい幸せで裕福かということは、彼らの生活についての私の感覚を通じて判断できるのみだ。それでも、このことは私に、こう考えさせた。もし、あなたは福耳だから将来は良い人生を送る、と言われると、⁽²⁰⁾あなたが結果としてそうなる可能性が高まるかもしれないのだ。まあ、私は人生でこんなに年を取るまで福耳について知らなくてよかった。私の耳たぶは

こんな姿だが、私はこの生活において幸せだし恵まれていると喜んで言おう。

基本

I (1) 現在分詞にして、付帯状況を表す分詞構文にする。「…そして～」という意味。

(9) 直前に〈冠詞＋形容詞〉があることから、名詞にする。

II (2) 過去の時点において、「それ以前に～したことがなかった」は過去完了で表す。

(4) 〈none of＋複数名詞〉「(…のうちの)どれも～ない」 (13) slide「滑る」

(17) 外見をたずねる〈What＋do＋主語＋look like?〉という表現を間接疑問にする。

重要

III (3) 〈occur to＋人〉＝come into one's mind 「(考えなどが)人の心に浮かぶ」

(6) hardly any～「ほとんど～ない」 (7) be in for～「(困難・悪天候などに)会いそうだ」

(12) ウ「インターネットの画像検索をすれば、簡単にこのことを確かめられる」

(19) there it was「それがあった」のitはa relationship between richness and earlobesを指す。エ「私は裕福さと耳たぶの関連性を認めなくてはならなかった」

やや難

IV (5) those with such earlobes are said to be (lucky and well-off.) 受動態の文。be said to～「～だと言われている」 with～「～を持った」 (10) they had more than enough to eat. more than enough「十二分、必要以上」をto eatが後ろから修飾する。

V (8) 福耳についての文であることから、耳たぶの「大きさ」と「裕福さ」が適切。

(14) 直前の文に「耳は2つで口は1つ」とあることから、「話すことの2倍聴く」が適切。

VI (11) put on～「(体重などが)増える」 (16) divide～into…「～を…に分ける」

VII (15) opportunities [əpɔ:t(j)ú:nətiz] (18) scientific [saiəntifik]

重要

VIII be likely to～「～しそうである」 turn out「～であるとわかる」 that way「そのように」 have a chance of～ing「～する可能性[見込み]がある」 下線部(15)の次の文に、chance「可能性、見込み」があるのでこれを抜き出す。

やや難

IX ア「福耳についての伝統的な考え方にも関わらず、筆者は耳たぶが小さいことをまったく気にしていない」(×) 最終段落最終文で筆者は「耳たぶが小さくても幸せだ」と言っているが、下線部(7)に「私はひどい運命になりませんようにと願う」とあることから、「耳たぶが小さいことをまったく気にしていない」というわけではない。 イ「筆者は、自分の周りで耳たぶの大きな人の多くは、実際に裕福で幸せな暮らしをしている、と思っている」(○) 最後から2番目の段落参照。友人の福耳リストを作成し、裕福さと耳たぶの関連性を発見したことから、正しい内容と言える。 ウ「筆者は自分の調査結果にとっても喜んでいる、なぜなら自分が将来もっと幸せになることを意味するからだ」(×) エ「耳たぶの大きさや形は人がどのくらい幸せで裕福かということとまったく関係がない、と筆者は発見した」(×) オ「筆者の先生の1人は、彼女に福耳を持つことの重要性について説明した」(×) カ「筆者の友人の1人は、耳たぶの形と角度も大きさと同様に福耳にとって重要だ、と彼女に話した」(○)

B

(長文読解問題・紹介文：発音、言い換え・書き換え、語彙、文補充・選択、語句補充・選択、前置詞、不定詞、接続詞、話法、代名詞、語句整序、助動詞、同意語、内容吟味、英問英答、動名詞)

(全訳) アンナ・ウィルバーが最後に⁽¹⁾聞いた音は、ウィーンの町に落とされている爆弾だった。それは50年以上も前の第二次世界大戦中で、彼女がわずか15歳のときだった。ウィルバー夫人は当時オーストリアに住んでいて、その国は戦争中にドイツ軍に侵攻されていた。彼女の父親はドイツ人はひどいと思っているオーストリア人で、⁽²⁾彼が自分の考えを声に出して言うと、彼の子供たちは学校から追い出され、家族は兵士たちから身を隠さなくてはならなくなった。

ある晩、ウィルバー夫人はととても具合が悪くなった。彼女は激しい⁽³⁾頭痛がして発熱していた。

[4]彼女の両親は彼女を病院へ連れていけなかった。彼らは本当に心配していたが、自分たち皆が

ドイツ軍に見つかってしまうことを恐れたので、彼女を代わりに近くの隠れ家⁽⁵⁾へ連れていったが、そこには薬がなかった。彼女は2週間具合が悪く、ようやくベッドから出られるようになったときには、まったく耳が聞こえなかった。

ウィルバー夫人は聞こえないことが悲しかったが、生きていられて幸せであり、戦争が終わるころ⁽⁶⁾までに人のくちびるを読むことができるようになっていた。⁽⁷⁾ウィーンのいたるところに非常にたくさんのアメリカ兵がいて、彼らがドイツ軍⁽⁸⁾を追い出したのだが、ある晩彼女は1人の兵士と出会った、それはビル・ウィルバーという名前のドイツ語を話す男性だった。彼らはデートをするようになり、そしてしばらくの間ウィルバー氏は、美しい赤毛のこの陽気な若い女性が⁽⁹⁾耳が聞こえないということに気付かなかった。なぜなら彼女は読唇術がとても上手だったからだ。

ビルとアンナは結婚し、アメリカのウィルバー氏の農場へと戻った。ウィルバー夫人は英語でくちびるを読むこと(それは⁽¹⁰⁾彼女がそれまでにめったに聞いたことのない言語だった)と家族⁽¹¹⁾を育てることを学んだ。ウィルバー氏はときどき夜間に働いたので、⁽¹²⁾ウィルバー夫人は子供たちが泣くのを見て感じるができるように、子供たちと一緒にベッドに入った。子供たちが学校に通っているときは、彼女は絵を描いたり詩を書いたりするのが大好きで、彼女の詩のいくつかは詩の本に載った。彼女は音楽が聞こえないにもかかわらず、踊るのも大好きだった。代わりに、彼女は振動を感じ、頭の中で拍子⁽¹³⁾を数え、他のダンサーを見た。「音楽は今でも私の心の中にありました」と彼女は言った。

彼女はもう一度音が聞きたかった。毎日彼女は農場の近くに散歩に出かけたが、山を見上げて、鳥の声も滝の音も聞こえなかった。しかし彼女が最も聞きたかったのは、自分の子供たちの笑い声だった。

ある日、最初に耳が聞こえなくなってから50年以上も後に、ウィルバー夫人はある手術について知った。⁽¹⁵⁾それは多くの耳が聞こえない人を再び聞こえるようにできる。その手術の間、それは3時間かかり、費用は⁽¹⁶⁾4万ドルだったが、医師たちがとても小さな機械を耳の中に入れた。

最初に医師たちがこの⁽¹⁷⁾装置を入れる。次に、1か月後、そのスイッチを入れる。そのドキドキして不安な瞬間のために、ウィルバー夫人は家族全員を医師の診察室に集めた。彼女の親類14人がその小さな部屋にいた。彼女の夫、兄、姉、3人の子供たち、6人の孫、2人のひ孫だ。

「準備はいいですか」と医師のジョージ・モートンが言った。

「準備はいいかですって？」とウィルバー夫人はモートン医師のくちびるを読んでから言った。「私は55年間も準備できていますよ」それからモートン医師は、ウィルバー夫人が彼のくちびるがどうなっているのか見えないように、口の前に1枚の紙を掲げた。「ボッ、ボッ、ボッ」とモートン医師は言った。

すぐに、ウィルバー夫人は自分が聞いたばかりの音を繰り返した。「ボッ、ボッ、ボッ」

⁽¹⁸⁾彼女の周りの誰もが、彼女を愛しているこれらの人々全員が、泣き出した。

「ほら」とウィルバー夫人は幸せそうな笑顔⁽¹⁹⁾で言った。「私に話しかけて」彼女の一番上の娘は、同じアンナという名前だが、自分の手で母親の目を優しく⁽²⁰⁾おおい、ウィルバー夫人がかつて聞いたことのない言葉を言った。「ママ、大好きよ」

彼女の10代の孫息子のトーマスは、話そうとしたのだが、⁽²¹⁾うれしくて泣きすぎて言葉が出なかった。

彼女の夫のビルは、彼女に歩み寄り、優しく言った。「僕は君に1946年に出会った。それからずっと本当に幸せだ」それは彼女が彼の声を聴いた初めての時だった。⁽²²⁾彼は彼女に言った。「僕の声は君が想像した通りかい？」「ええ」と彼女は言った。彼の声は低くて力強かった。彼女の世界の隅々まで音があった。

I (1) 見出し語とエは [ə:r] アは [iər] イとウは [ɑ:r] (3) 見出し語とアは [ei] イは [ə] ウは [e] エは [ɔ:] (13) 見出し語とウは [au] アとエは [ʌ] イは [ou]

重要 II (2) イ「彼が自分の考えを人前で表したとき」 **speak ~ aloud** 「～を声に出して言う」 **in public** 「人前で」 (8) **push out ~** 「～を押し出す」 **drive away ~** 「～を追い払う」 (9) **deaf** 「耳の聞こえない」 **unable to ~** 「～できない」 (10) ア「彼女がそれまでにほとんど聞いたことのない外国語」

III 全訳下線部参照。両親は兵士たちに見つかることを恐れ、彼女を病院へ連れていけなかった。

基本 IV (5) **take ~ to ...** 「～を…へ連れて行く」 (6) <**by the time** + 主語 + 動詞> 「～が…するときまでに」 (14) **go for a walk** 「散歩に行く」 (19) **with a smile** 「笑顔で、ほほえみを浮かべて」 (20) 娘が手で母の目をおおう場面。 **over ~** 「～をおおって」

重要 V (7) 「ウィーンはアメリカ兵でおおわれていた」 **be covered with ~** 「～でおおわれている」 (12) <**so that** + 主語 + **can** + 動詞の原形> 「～が…できるように」は、<**so as to** + 動詞の原形>へ書き換え可能。 (21) <**too ~ to** + 動詞の原形> 「とても～なので…できない」は <**so ~ that** + 主語 + **can't** + 動詞の原形>へ書き換え可能。 (22) 直接話法から間接話法への書き換え。 **whether** 「～かどうか」を使った間接疑問にし、代名詞も変える。

基本 VI この **to raise** は、動詞 **learned** の目的語となる名詞的用法の不定詞で「～すること」を表す。エも同じ名詞的用法。<**learn to** + 動詞の原形> 「～することを学ぶ、～するようになる」 アは「～するために」と目的を表す副詞的用法。イは「～するとは」と判断の根拠を表す副詞的用法。ウは「～する、～するべき」の意味で直前の名詞を修飾する、形容詞的用法。

VII **It can make many deaf people hear (again.)** 主語 **It** は直前の文の **an operation** を指す。<**make** + 目的語 + 動詞の原形> 「…に～させる」

VIII 40,000は、3桁目のコンマが **thousand** (1,000) を表すので、**forty thousand** と読む。**thousand** は複数形にしない。**\$** は **dollar** 「ドル」を表す。**dollar** は複数形 **dollars** にする。

IX **device** 「装置」は前文の **machine** 「機械」とほぼ同じ意味。

X ウィルバー夫人はくちびるを読まずに、医師の言葉を繰り返すことができた。ウ「ウィルバー夫人は医師が言ったことを聞き、部屋にいた人全員がともうれしかったから」

重要 XI 1 「アンナがビル・ウィルバーに初めて会ったのはいつか」「彼らは第二次世界大戦後に初めて出会った」 **for the first time** 「初めて」 2 「子供たちが学校に通っているとき、アンナは何をするのが好きだったか」「絵を描くことと詩を書くことが好きだった」 動名詞 **~ing** 「～すること」の形で答える。 3 「アンナ・ウィルバーはどのようにして音楽を楽しんだか」「拍子を数え、人々が踊るのを見た」 知覚動詞構文 <**watch** + 目的語 + 動詞の原形または **~ing**> 「…が～するのを[～しているのを]見つめる」 4 「なぜモートン医師はアンナ・ウィルバーの前に1枚の紙を掲げたのか」「自分のくちびるが見られないように、彼はそれを掲げた」 不定詞の意味上の主語は **for-** として不定詞の前に置く。<**not to** + 動詞の原形> は「～しないように」。ここでは受動態 **be seen** が続いているので、「見られないように」となる。 5 「医師たちが彼女の耳に入れられた小さな機械のスイッチを入れたとき、アンナはどのように感じたか」「複雑な気持ちだった。興奮と不安の両方を感じた」 **both ~ and ...** 「～と…の両方」

★ワンポイントアドバイス★



文章量も問題数も非常に多く、設問が多岐にわたっている。本文中の設問箇所(空所や下線部)が多いため、読み取りが寸断されることに注意が必要だ。

<国語解答> 《学校からの正答の発表はありません。》

- 一 問一 エ 問二 オ 問三 他者の形而上学 問四 イ 問五 a 自己中心性
b 自由競争 c 欲望 問六 現代の社会～してしまう(こと) 問七 ア
問八 ウ 問九 (a) 不遇 (b) 抗う (c) 脅威
- 二 問一 (a) 委ねた (b) 若干 (c) うちわけ 問二 A エ B ア C イ
問三 私にとって 問四 もう村に帰 問五 a 市場 b 有用性
問六 外部的な要～させている(から) 問七 オ 問八 イ・ウ
- 三 問一 エ 問二 (2) オ (3) ウ (4) イ 問三 イ
問四 (6) オ (7) ク 問五 ア・ウ

<国語解説>

一 (論説文—内容吟味, 文脈把握, 脱語補充, 漢字の書き取り)

問一 直後に「つまりふつうは……誰にも決して分からない」とあり、一般に人は自分のかけているメガネでものを見ることしかできないが、そのメガネがまちがったものであるとは思わないので、見えるものは正常と認識することになる。イが紛らわしいが、ここでは正常の意味が問われているので、「『異常』とは判断できない」という説明では不十分である。

問二 直前の内容から考える。人間が本来孤独なものであるとする主張そのものも、誰かに承認されたいと考えるのでオが適切。

問三 「私」と他者との間には根本的な不均衡があり、他者は「いと高きもの」であると同時に「私につねに助けを求める弱き存在である」とある。これが「他者の思想」であり、「これは、もともと」で始まる段落では「他者の形而上学と呼ばれている」レヴィナスの説を「他者の思想として使っている」と述べている。

問四 他者は「私につねに助けを求める弱き存在」であり、「私に救いの手を求める」が、それに対して「私」は人間の義務としてそれに応えなければならない。そのような関係においては、他者は「私」を倫理的な存在にすることになる。

重要 問五 「たとえば、ヘーゲルは」で始まる段落から考える。ここでは「自己中心性をどう制御するのは近代の人間思想の中心問題になる」とあり、他者の本質を表すaは「自己中心性」になる。bは現代社会を表す言葉が入り、この段落では「近代社会は基本的に、自由競争の社会」とある。なお、同意語ともいえる「資本主義」も誤りとはいえない。cは「つねに増幅される」ものと同意の「人間の欲望は果てしなく拡大し」から抜き出す。

やや難 問六 「哲学的な装い」をとっているものは「他者」の考えである。その考えに筆者が疑問を呈していることが「私が現代風の」で始まる段落の「ちょっと留保をつけたい」と表現されている。その理由として、現代の社会問題を前進させるものではないこと、現実の矛盾を回避する考えであることが挙げられているので、この部分を「弱点」と考えることができる。

問七 古い道徳や倫理の考えを強調することが「無効」とされる。すると利他的な感覚はその古い考えの範疇に入ることになり、傍線部の理由にはならないので、アが理由としては不適切になる。

問八 「精緻、膨大な理論の妥当性を判断する」ことなのでウの「正しいものとして承認する」が適切。アは「情報」、イは「哲学者」がそれぞれ対象として正しくない。エの「シンプル」は話題と外れ、オの「精緻なのかを判定する」は「妥当性を判断」に合わない。

問九 (a) 「不遇」は、才能や人物にふさわしい地位を得ていないこと。(b) 「抗う」は争い、

抵抗すること。「抗」の音読みは「コウ」、熟語は「抗争」「抵抗」など。「坑」と混同しないこと。
 (c)「脅威」は威力によっておびやかす(おびやかされる)こと。「驚異」「強意」などの同音異義語に注意。

㉒ (論説文一要旨, 内容吟味, 文脈把握, 接続語, 脱語補充, 漢字の読み書き)

問一 (a)「委ね」るは、人にまかせること。「委」の音読みは「イ」、熟語は「委託」「委任」など。(b)「若干」は、少しの数量やわずかであること。(c)「内訳」は、金銭や物品などの内容を項目別に細かく分けたもの。

問二 A 文末の「違いない」と呼応するものを選ぶ。B 八十年も経過した古い農家がゼロ査定を受けるはずであることと、「私」が古い農家を欲しがっていたために価値があることは逆の内容である。C 前文が理由になって、その結果を導く働きをしている。

やや難

問三 「私」と村人との接点となる考え方を述べる部分を探す。両者とも不動産の売買に意義を認めず、村の暮らしの拠点を求めるまたは手放すという「感覚」にある。これは「きよんと」で始まる段落の後半にある。

問四 持ち主は、古い農家について、直接の必要性がなくなったので手放す決断はしたものの、墓参りなどで村に帰ってきたとき、何らかの居場所だけは残しておきたいという気持ちになっている。このことを具体的に表現する部分を探すとよい。

問五 aは、「最後は少し」で始まる段落に、筆者が買おうとしている古い農家については、「妥当な価格が存在しない。つまり市場が成立していない」とある。bは、「ところが私は」で始まる段落に「有用性と価格とは、次元が異なる」とあることが手がかりになる。

やや難

問六 筆者が農家を買うことは、市場での不動産取引というものではなく、ただ単に有用性を手に入れるだけが目的であったが、必然的に国家の制度などの外部的要因によって、そこに貨幣が介入してくる。しかし、筆者は、それを「バカバカしいもの」としか感じていない。つまり、貨幣はここでは実態を持たない虚構のものにすぎない。「虚構」をキーワードとして、この内容を述べている部分を指定字数をヒントに探す。

問七 Dは、「十八世紀から十九世紀にかけて」のことが述べられている。この頃、人々は貨幣について「有用性」と感じていたか、「虚構性」と感じていたかを判断することになるが、同じ時期について述べた「とりわけ人間の」で始まる段落に「労働を貨幣量で評価すること自体が虚構のはず」とある。Eは、その当時の職人の生き方を表す語が入り、F・Gは前文を受けてEと同一語が入ることをとらえる。

重要

問八 イの「労働力の流動化」については特に話題とされていない。ウは「有用性の貨幣化」と「貨幣の虚構性を人々が感じる」との因果関係が示されていない。

㉓ (古文一口語訳, 内容吟味, 主語)

〈口語訳〉 右中弁惟家という人がいた。賀茂神社から、(供え物などをするようにと)言ってこられることがあったので、(従者が)この人(=惟家)に告げたところ、「末の世になると、神も仏も欲が深くなられることだよ」と言って、その申し出に応えようとするはなかったところ、ある女房が賀茂神社にお籠りをして見た夢に、(賀茂神社の神が)武者の姿をした者をお呼びになって、「惟家の弁を今すぐ召し連れて参れ」と仰せが下ると、(武者姿の者は)お聞きして出て行ったと思ううちに、まもなく帰参して、「(惟家は)大般若経を読み申しあげておりましたので、(邸の中へ)入ることのできる道がございません」と申しあげたところ、「西北の方角の隅に、きたない僧がいる所から入れ」と仰せが下されたとき、不思議なことだと思って、(女房は)夜明けの頃に、下向していったところ、京中の方で人々が「右中弁殿が、突然今夜お亡くなりになってしまった」と言って騒いでいた。とても驚いたことだ。

問一 「欲の深くおはします」とあるので、金銭や領地などに関連して、神社から要求があったと考える。

問二 (2) 賀茂神社からの供え物の要求に対して、批判的な意見を言って、その要求を拒否した人物なのでオが適切。(3) 賀茂神社に通夜をする女房が見た夢の中で、武者姿の者を呼び立てているので賀茂社の神と考える。(4) 賀茂社の神と武者姿の者のやりとりを夢に見ている人物である。

重要 問三 「べき」はここでは可能の助動詞。武者姿の者が惟家の邸を訪れたところ、ちょうど惟家は般若経を唱えている最中で、邸内に入れなかったと報告している場面である。

基本 問四 (6) 物事が前ぶれもなく突然発生することを表す語。(7) 「あさまし」は、「驚きあきれたことだ」という意味の形容詞。

やや難 問五 アは惟家の夢ではなく、「ある女房」の夢の中である。ウは「快く応じている」が誤りで、「執り申すことなかりける」とある。

★ワンポイントアドバイス★



抜き出し問題が大きなウエイトを占める。あらかじめ設問に目を通しておき、傍線部の同意表現や理由説明箇所を意識して読み進め、「解答の候補」になる部分にはマークなどをするとよい。